

舊ノアサムヅノ橋跡ハ、同郡野<sup>○大</sup>上呂郷尾崎村ニアリ、國説ニ云ク、古昔ノアサムヅノ橋跡ハ今ノ尾崎ノ濟ニテ、益田川ヲ横ワタシスル所也、是ヲ濟テ往來スルヲ今モ位山通リト云、古ノ本道也、今ノ本道小坂通リハ、天正ノ頃山溪ヲ切開キ、小坂ノ谷川ニ橋ヲカケテ舊號ヲ稱シテ、アサムヅノ橋トモ云ヒ小坂ノ橋トモ唱ヘリ、按ズルニアサムヅノ跡ト稱スル尾崎ノ濟モ、里民ノ口碑ニ傳フルノミニテ、サダカ無ラザリシ處ニ、ハカラザルニ元文庚申ノ秋八月、益田川洪水シテ此船ワタシスル岸深ク破レタル其地中ヨリ、古ノ臺木二本顯レ出タリ、故ニ全ク古橋ノ跡タルコトヲ知リヌ、其木性ハ檜ノ大木也、周リハ朽ヌレドモ中眞ハ損セズ、則元ノ如ク土中ニ埋メタ今所在之アサムヅノ橋、益田郡小坂郷小坂町村ニアリ、國説ニ云ク、是ヲ小坂通ト號シテ今ノ本道タリ、棧道ニ作ル、凡<sup>○</sup>縱十三丈、横一丈四尺、

〔夫木和歌抄<sup>二十一</sup>〕文治三年百首忍戀<sup>○註</sup>

前中納言定家卿

ことづてん人の心もあやふきにふみだにもみぬあさむづの橋

〔東遊記<sup>二</sup>〕九十九橋

邊國山中に懸渡せる所の小橋には、朝六ツの橋、かつら橋など奇妙の橋少からず、朝六ツの橋は、飛驒の國の山中にかけ渡せる石橋にて、いかなる暗夜といへども、其橋の上に至れば少し明らかになりて、人顔も臍に見えたとへば朝六ツ比のあかりのごとし、故に土俗むかしより朝六ツの橋と名付くとかや、物知れる人のいひしは、此橋の下には名玉あるゆゑなるべしと、誠にさもありぬべく覺ゆ、

〔飛州志<sup>二</sup>國法〕私呼橋

高原大橋<sup>同上</sup>、吉城郡船津町村<sup>往古此地</sup>、江馬家領ノトキ、

〔視聽草<sup>五集</sup>六〕藤橋之記